

都市再生整備計画 事後評価シート

霧島市国分中央地区(第3期)

令和4年3月

鹿児島県霧島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	霧島市(きりしまし)		地区名	霧島市国分中央地区(第3期)(きりしましこくぶちゅうおうちく)		面積	84ha			
交付期間	平成29～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	445.55百万円		国費率	0.4～0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	[道路]:市道町の下2号線、犬追馬場線 [高質空間形成施設]:川跡地区道路、市道西町線									
	当初計画から削除した事業		提案事業	[地域創造支援事業]:空き店舗活用のための家賃補助、まちなかりノベーション推進事業 [事業効果分析]:事後評価									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業	[高質空間形成施設]:市道町の下1号線、市道町の下3号線、市道府中車田線、市道川跡9号線、商業・業務拠点周辺市道(照明施設)			計画期間内実施が困難と判明したため。			全ての定量化指標にマイナスの影響があるが、指標2のみ数値目標を変更した。			
			提案事業	[地域創造支援事業]:イベント等への支援			実施しなかったため			指標2にマイナスの影響があることから、数値目標を変更した。			
交付期間の変更		当初	平成29～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	変更なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	通りの回遊性	人/日	1,405	H27	1,405	R3	モニタリング	評価値	○	あり● なし	第1期計画から取り組んできたハード整備や民間のまちづくり団体によるまちなかでの定期的なイベント開催等の取り組みにより、中心市街地への来客が増加したものと考えられるが、調査実施時期が新型コロナウイルス感染症の第5波が収束し、県内でも感染者が出ていない時期に重なったことも影響していると考えられる。	-
	指標2	中心市街地の活性化に関する満足度	%	63	H28	65	R3		83	○	あり● なし	空き店舗を活用した新規出店を促す事業を実施し、新規出店がなされたことが一因と考えられるが、依然として空き店舗や空き地などの遊休不動産は多く存在している。また、設問が中心市街地に特化したものではなく、国分・準人地域全体を対象としており、国分中央地区外において、ロードサイド型・郊外型の全国展開している有名・人気チェーン店が近年多く進出していることが大きな要因になっているものと考えられる。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	JR国分駅の乗車人員数	人/日	2,888	H27	/		モニタリング	2,451	/	/	九州内の多くの駅においても同様の傾向であり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により鉄道利用者が大幅に減少したものと考えられる。	R6.8
	その他の数値指標2	安全・快適な歩行空間提供率	%	52	H28	/			55	/	/	基幹事業である道路整備に伴って、着実に歩行空間が増加している。	-
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	事業効果分析(中間評価)		都市再生整備計画に記載し、実施できた				-					
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-					
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○					
都市再生整備計画に記載し、実施できた				-									
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-						
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						
			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-						

様式2-2 地区の概要

霧島市国分中央地区(第3期)(鹿児島県霧島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 未来に向けた新たな地域の発展をリードする安全・快適な国分地域の核と顔づくり 目標1: 「核」、「顔」としての求心力の回復に向けた、まちの総合力・回遊性の向上 目標2: 骨格道路の機能強化と市民生活に密着した道路の質の強化 目標3: 安心・安全なまちとしての機能の向上	通りの回遊性	単位: 人/日	1,405	H27	1,405	R3	1,692	R3
	中心市街地の活性化に関する満足度	単位: %	63	H28	65	R3	83	R3
		単位:		H		H		H

国分中央地区 (84ha)

滞在快適性等向上区域 (36ha)

市道町の下2号線

犬追馬場線

川跡地区道路

市道西町線

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 商店街における空き店舗の増加とともに、駐車場や空き地が散在するなど都市のスポンジ化が進行し、地価が大幅に下落していることから、市税の減収を招き、経済活動の機会損失や郊外への需要の流出につながっている。 軸にアクセスする細道路においては、歩行空間が明確でない区間や幅員狭小区間において自動車のすれ違いが困難な箇所が存在しており、自動車及び歩行者移動の安全性向上が求められる。 きりしま国分山形屋・国分パークプラザといった拠点施設整備はなされたものの、その周辺地域においては、回遊性を高めるような空間づくりが不足しているとともに、遊ぶ場所が少ない・暮らしの中で文化や芸術に触れる機会が少ないなど、屋間に楽しめる要素に乏しく、賑わいに欠ける。 人口の増加や郊外型商業施設の増加などに伴う交通量の増大により、幹線道路の一部では慢性的な交通渋滞が発生している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> きりしま国分山形屋、国分パークプラザ等の拠点施設周辺の道路、公共空間における回遊性・滞在性を高める空間づくりにより、賑わいの創出を図る。 まちづくりにおける民間人材の育成と、遊休不動産の活用により、まちなかの賑わいの創出を図る。 住居や都市機能の集積による「密度の経済」の発揮を通じて、住民の生活利便性の維持・向上、地域経済の活性化、行政コストの削減など、具体的な行政目的を実現することを目的とし、コンパクトシティ形成のための調査結果の分析・検討を行うことで将来の都市形成の充実を図る。 きりしま国分山形屋、国分パークプラザ周辺の商業・業務拠点内の歩行者回遊ネットワークの整備により、歩行者の快適性の向上を図る。 未整備の幹線道路の早期整備により、中心市街地と周辺地域間の交通アクセスの向上を図る。 市民生活に密着した道路における歩行空間の確保により、自動車・歩行者の通行における安全性の向上を図る。